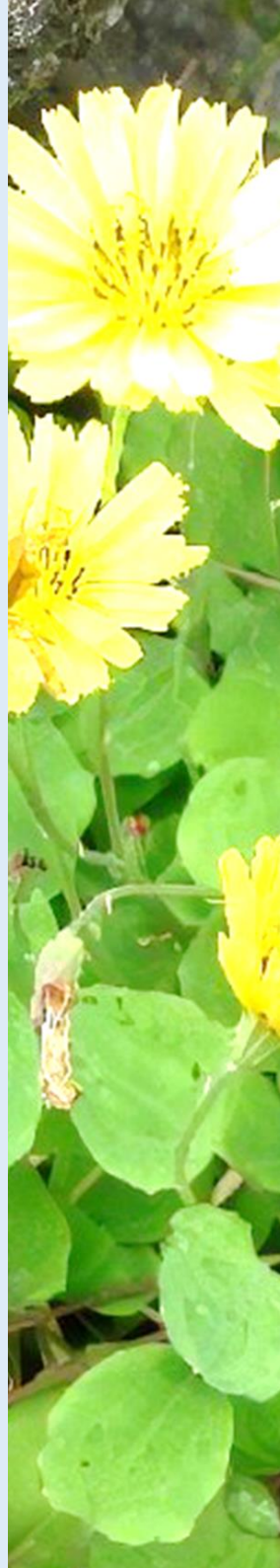


千代子は「獄中書簡」の冒頭で、獄窓に見るジシバリの花に寄せて「想い」を伝えようとしていた。



伊藤千代子没後 95 周年記念

うす だ

碓田のぼる 歌人 講演会

「今日の情勢のなかで、

あらためて伊藤千代子を想う」



9月23日(月・祝) 午後1時～

苫小牧市立中央図書館講堂にて (参加費無料)

(苫小牧市末広町3丁目1-15 ☎ 0144-35-0511)

講演会のあと、「歌会」と行います。
希望者は9月18日までに原稿をお送り下さい。
送り先・本波 裕樹
(電話 0144-72-6827 fax とも)

碓田 のぼる

1928年長野県生まれ。17歳で国鉄長野工場の見習工となる。夜間中学を経て東京物理学校(現在の東京理科大)卒。高校教諭を経て、全国私教連委員長・全教副委員長を歴任。

歌人、渡邊順三に師事。新日本歌人協会全国監事を経て、日本民主主義文学会員、国際啄木学会員。啄木研究者。治安維持法国賠償同盟「不屈」短歌の選者。著作多数。

主催:碓田のぼる講演会実行委員会 実行委員長 入谷寿一(玄冬) 後援:映画「わが青春つきるとも—伊藤千代子の生涯—」上映実行委員会

連絡先:竹田孝夫 ☎0144-67-6667(fax とも) 畠山忠弘(携帯)090-8279-6726

ご協力とご参加の呼びかけ（抄）

今年9月24日は95年前に逝去された伊藤千代子の命日です。

御存じのことと思いますが、伊藤千代子は1928年（昭和3年）3月15日の治安維持法による思想弾圧で逮捕され拘禁と拷問にも負けず非転向で命を落としました。この事実を知った教え子伊藤千代子を悼んでうたったアララギの指導的歌人土屋文明は弾圧を恐れず全国的歌誌に発表します。（右欄へ3首掲載）

いま、新しい戦前が着々と進められ、憲法を踏みにじり大軍拡が押し進められているとき、短歌をはじめ俳句、川柳、詩などの文芸活動の力を発揮し、この動きを押しとどめる運動の一助となれば幸いです。皆様のご協力とご参加を心からお願い致します。

碓田のぼる 北海道・石川啄木との出会い

愛国少年だった私の啄木の歌との印象的な出会いは、敗戦の年で十七歳でした。高等小学校を出て長野の鉄道工場に勤めていましたが、石炭危機で「増産隊」が組織され、北海道の美流渡鉱山にいて採掘作業をやりましてね。粗末なつくりの宿舎で、汗と油のベニヤ板張りの壁に小さな落書きがあるのに気づきました。朝鮮文字に混じって、日本語で歌が書かれていました。「今日もまた胸に痛みあり。／死ぬならば／ふるさとに行きて死なむと思う。」と「地図の上朝鮮国にくろぐろと墨をぬりつつ秋風を聞く」の二首でした。

短歌結社「アララギ」の指導的歌人土屋文明が一九三五年（昭和十年）に発表した伊藤千代子を詠んだ歌

こころざしつたふれし少女よ 新しき光の中におきて思はむ
高き世をただめぢす処女らの ここにみれば伊藤千代子がことぞ悲しき
まをとめのただ素直に行きにしと 囚えられ獄に死にき五年がほどに